

琉球民族遺骨返還研究会代表の松島泰勝・龍谷大教授らは15日、西原町の県立埋蔵文化財センターを訪れ、台湾大学から返還された琉球人の遺骨を確認した。県教育庁にあらためて遺骨を再風葬するよう求めたが、学術資料として調査を進める教育庁の方針と折り合いはつかなかった。

遺骨は戦前に京都帝国大学の人類学者によって、今帰仁村の百按司墓など県内で収集された63体分の頭骨など。個別に段ボールに納められ、同センター収蔵庫内の保管棚に並べられている。台湾大学から発送される際の荷造りに教育庁の職

琉球人遺骨 再風葬求める

龍谷大教授ら 県と折り合い付かず



台湾から返還された琉球人の遺骨を確認し、県教育庁に再風葬するよう求める松島教授ら＝15日、西原町・県立埋蔵文化財センター

員2人が立ち会っていると

いう。松島教授は、第一尚氏の子孫に当たる玉城毅さん(69)、亀谷正子さん(74)らと共に先祖の供養として合掌し、63体のうち百按司墓から持ち去られた33体分を元の場所へ再風葬するよう要請した。

対応した県教育庁文化財課の濱口寿夫課長は、百按司墓に誰の遺骨が祭られているかには諸説があることなどを説明し理解を求めた。百按司墓の33体分について、今帰仁村が将来的に

は受け入れ態勢を整え、保管する意向を示しているという。